



ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その64

三重県名張市にある、皮膚科の医院「川口クリニック」です。米田明氏の設計により2007年に完成しました。幹線道路沿いにあり、見ても通り長い筒状の2階が「片持ち」で宙に浮く様は、とても強いインパクトを与えています。このような「キャンチレバー構造」は、建築に携わる人なら一度は夢見る「重力からの解放」を具現化させるひとつの手法です。

CURRENTLY WORKS



調剤薬局の飛び石改修…その3

前回に続いての物件です。ここでは壁面に、旧タイプの背の高い薬品棚が設置されていましたが、全面的に撤去し、住まい部分への移動のための通路空間を取った上で、背の低い薬品棚に更新しました。これの裏面は全面の収納棚を取り、店内が雑然とまらないような設計としています。上部には緑色のボーダーを奥まで続かせ、患者様の誘導を促しています。

PRIVATE TOPICS



太田のアート探訪記 その15

今年、浜松市に完成した「春華堂スイーツバンク」です。うなぎパイで有名な「春華堂」の本社屋であり、ショップとカフェ、さらには銀行も含む施設で、椅子とテーブルを13倍に拡大したデザインになっています。設計は日建設計ですが、アイデア自体はオーナーからの提案だそうです。訪れた人を驚かすと共に、笑いを誘う造形はアートの一部だと思います。

EDITORIAL NOTE

11月と言えば「七五三」です。この起源は1681年11月15日に、館林城主の徳川徳松の健康祈願が行われたことからだそうです。その後、徐々に形を変え、3歳の女児の「髪置きの儀」、5歳男児の「袴儀」、7歳女児の「帯解きの儀」となり、現在では、男女問わずの成長を祝う儀式となりました。

編集担当：太田・藤原